

日本学術会議主催学術フォーラム

「データと発見—Data Intensive Scientific Discovery」

日時:平成24年9月10日(月) 13:00~18:00

場所:日本学術会議講堂 定員:先着 300名



開催趣旨

第4のパラダイムとして提案されているデータ科学の時代におけるデータリテラシー、情報環境、価値創出についての現状について、講演とポスター発表を行い、パネル討論を通して科学技術データと社会との適正な関係についての課題と展望を明らかにする。

後援

科学技術データ委員会CODATA(Committee on Data for Science and Technology)、世界科学データシステムWDS(World Data System)-IPO、情報知識学会、科学技術振興機構、情報通信研究機構、日本原子力研究開発機構、日本学術振興会原子炉材料第122委員会、事業構想大学院大学、東京大学フューチャーセンター、日本経済新聞社

次第

- 13:00~13:05 開会挨拶
春日文子(日本学術会議副会長)
- 13:05~13:10 企画のねらい
岩田 修一(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、事業構想大学院大学教授)
- 13:10~14:05 セッションⅠ 「データの時代」
特別講演(1)「第4のパラダイム:データ駆動型の科学的発見」
Tony Hey(マイクロソフトリサーチ 産学連携担当副社長)
特別講演(2)「ビッグデータ」
喜連川 優(日本学術会議会員、東京大学生産技術研究所教授)
- 14:05~14:45 セッションⅡ データと社会
「空間データと発見:小学生の日常活動調査から」
原田 豊(科学警察研究所犯罪行動科学部長)
「KOMTRAXにおけるデータ活用」
木村和之(コマツ ICT事業本部ICTグローバル推進部 チーム長)
- 14:45~15:00 休憩
- 15:00~17:00 セッションⅢ データと学術
「ヒッグス粒子の発見と大規模データ処理」
坂本 宏(東京大学素粒子物理国際研究センター教授)
「単一生細胞物理化学データによる生命環境の統計的定量評価」
浜口 宏夫(日本学術会議連携会員、台湾国立交通大学理学院講座教授)
「生命科学におけるゲノム研究の最前線とビッグデータ問題」
五條堀 孝(日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授)
池尾 一穂(国立遺伝学研究所准教授)
「放射線が拓く植物活動の謎の発見」
中西 友子(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学系研究科教授)
「長期歴史データと発見」
鈴木 董(東京大学名誉教授)
- 17:00~18:00 セッションⅣ 総括討論 データは学術と社会のインターフェイスになることができるか?
司会:岩田修一(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、事業構想大学院大学教授)
パネリスト:杉本誠司(株式会社ドワンゴ/株式会社ニワンゴ社長)
平 和博(朝日新聞国際編集部長代理)
野村茂雄(日本原子力研究開発機構理事、日本原子力学会会長)
村山泰啓(情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長)
セッションⅠ~Ⅲの講演者の代表

日本学術会議案内図



申込先:日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34
TEL:03-3403-6295 FAX:03-3403-1260
申込みフォーム: <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>